「経済資料研究」投稿規定・執筆要領

2006年2月10日

経済資料協議会
「経済資料研究」編集委員会

1．経済資料協議会の会員は「経済資料研究」に投稿することができる。非会員を含む共同執筆の場合、その執筆代表者は会員でなければならない。
2．投稿原稿については、編集委員会にて審査を行い掲載の可否を決定するが、必要に応じて執筆者にリライトを求めることがある。
3．掲載された論文等の著作権は経済資料協議会に帰属するものとする。他の出版物にすべて、または一部を転載する場合には、著者はその旨を経済資料協議会に連絡し、既に本誌に掲載されたことを明示すること。
4．投稿者は本執筆要領にもとづいて原稿を作成し、投稿すること。
5．原稿は横書きとし、ワープロ作成による完全原稿であること。原則として手書き原稿は認めない。原稿を納入したフロッピィーとプリントアウトした原稿を１部提出し、利用したＯＳ、ソフト名を明記すること。
6．投稿原稿にはタイトルと氏名、所属機関名、職名、英文タイトルを記入した表紙を付けること。
7．原稿の制限枚数は下記のようにする。
　論文：１５，０００字以内。
　研究ノート：１２，０００字以内。
　書評：８，０００字以内。
　図版及び表は１枚４００字に換算する。
8．論文の執筆には原則として現代かなづかい、常用漢字を用いること。
9．本文中の章題番号はローマ数字(ゴシック) Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、・・・・を使用し、節題番号はアラビア数字１、２、３、４、・・・・を使用すること。
10．継続論文の表示はアラビア数字（1）、（2）、（3）、・・・・を使用すること。
11．論文中の数字については、原則としてアラビア数字を使用すること。
　例・2000年、第19巻、等
12．本文中の数の位は、「万、億、兆」の漢字で表し、「千」以下の漢字および

コンマは使用しない。(図表、数式は除く)

例・1億3000万、650万人、等

13. 数式は特に指示がない場合、変数はイタリック体を使用する。

14. 外来語は必要以外はカタカナを使用する。

例・独逸→ドイツ、頁→ページ、等

15. 表および図は本文とは別に作成し、その挿入箇所はプリントアウトした原稿に指示すること。

16. 表および図の見出しは、表1、表2、・・・・、図1、図2、・・・・、として通し番号を付すこと。

17. 表および図に関する注と資料出所は、表と図の下に記すこと。その際、注を上段に、資料出所は下段に明示すること。

18. 注は後注形式をとるので本文とは別に作成し、一論文にわたる通し番号とすること。

19. 注番号には1)、2)、3)、・・・・を使用し、右肩に指示する。プリントアウトした原稿上に注番号を赤で丸囲みして、注の位置がわかるようにする。

例・「資本論」[2] では・・・・

「・・・・興味のあることである」[3] といっている。

「・・・・認められている。」[4]

・・・・示されている[5]。

20. 引用文献、参照文献の表記については下記の方式を用いることとする。

1) 日本語文献

a. 単行書

著者『書名』(シリーズ名) 出版社、出版年(原則として西暦)、引用ページ。

例・前田愛『近代読者の成立』(同時代ライブラリー) 岩波書店、1993年、100-105ページ。

b. 論文(講座、シリーズ、論文集等に収録されたもの)

執筆者「論文名」(編者『書名』、出版社、出版年)、引用ページ。

例・上田修一「研究活動と電子メディア」(倉田敬子編『電子メディアは研究を変えるのか』勁草書房、2000年)、12ページ。

c. 雑誌論文

執筆者「論文名」『雑誌名』巻号、年月、引用ページ。

例・安藤正人「日本のアーカイブズ研究とアーキビスト教育」『経済資料研究』No.35、2005年3月、5ページ。

d．新聞

『新聞名』年月日、朝夕刊。

例・『日本経済新聞』2006年2月20日付、夕刊。

2）外国文献

著者名は倒置して姓名の順にする。共著者の場合、２人目以降は倒置しない。

書名、雑誌名、新聞名はイタリック体にする。

ページは、ドイツ語、ロシア語を除いてp.を使用する。引用箇所が２ページ以上にわたるときはpp.を使用する。

ドイツ語はS.(大文字) を使用し、引用ページが２ページ以上にわたってもSS.とはしない。

ロシア語はcnh.を使用し、これも引用ページが複数になっても変わらない。

a．単行書

著者，書名，版次，出版地，出版社，出版年，引用ページ.

例・Remenyi, D., B. Williams, A. Money and E. Swartz, Doing Research in Business and Management: An Introduction to Process and Method, Sage Publications, 1998, pp. 80-89.

b．邦訳のある単行書

著者，書名，版次，出版地，出版社，出版年，引用ページ.（訳者『書名』，出版社，出版年）。

例・Lancaster, F. W., Toward Paperless Information Systems, New York, Academic Press, 1978, pp. 9-11.（植村俊亮訳『紙なし情報システム』共立出版，1984年）。

c．論文（論文集に収録されたもの）

著者，“論文名” in 書名，ed. by 編者，出版地，出版社，出版年，引用ページ.

例・Bernal, J. D., “Preminary Analysis of Pilot stionaire on Use of Scientific Literature” in Report of The Royal

Society Scientific Information Conference, ed. Royal Society, London, Royal Society, 1948, pp.59-91.

d．雑誌論文

執筆者，“論文名，”雑誌名，巻，号，月年，引用ページ.

例・Sakurada, T., K. Yagi, “Kyoto University Economic Review, 1926-2003,” The Kyoto University Economic Review, Supplement, Apr. 2004, p.3.

e．新聞

新聞名，日月年。

例・Financial Times, 21 April 1998.

21. 繰返しの引用、参照の表記については原則として下記の方式を用いることとする。

1）日本語文献

a．すぐ前に引用文献がある場合

同上書（または同上論文、同上誌、同上紙）、引用ページ。

例・同上論文、95ページ。

b．間に他の引用文献がある場合

姓、前掲書、引用ページ。

例・細谷、前掲書、13ページ。

2）外国語文献

a．すぐ前に引用文献がある場合

Ibid.（同上書，同上論文の意），引用ページ.

例・13）Gilpin, R., U. S. Power and the Multinational Corporation, New York, Basic Book Inc., 1975, p. 220.

14）Ibid., pp. 225-226.

b．間に他の引用文献がある場合

姓，op. cit.（前掲書，前掲論文の意），引用ページ.

例・2）Viotti, P. R., M. V. Kauppi, International Relations Theory, 2nd ed., New York, Macmillan Pub. Co., 1993, pp. 5-7, 35-37, 59.

3), 4), 5)・・・・

30）Viotti and Kauppi, op. cit., p. 537.

3）ドイツ語文献

a．すぐ前に引用文献がある場合

Ebenda（または ebd. で同上書，同上論文の意），引用ページ.

Ebenda はイタリック体にしない。

例・Ebenda, S. 55-62.

b．間に他の引用文献がある場合

姓, a. a. O.（am angegebenen Ort の略で前掲書, 前掲論文の意），引用ページ.

これもイタリック体にしない。

例・Bues, A., a. a. O., S. 10.

22. 引用文献、参照文献を論文末に一括して表記する場合は、著者のアルファベット順または 50 音順に配列する。

23. 校正は著者校正を初校まで行い、再・三校は編集委員会で行う。校正では原稿の訂正、文章の加除は原則として認められない。

24. 抜刷は 30 部渡すこととするが、それ以上の部数については実費自己負担とする。